

大豆栽培情報（6月号）

令和7年6月16日
福岡大城農業協同組合
南筑後・久留米普及指導センター

大豆の収量向上には「適期播種」が重要です。播種準備は早めに取り掛かってください。耕起後に降雨にあうと、しばらくの間トラクタ作業ができなくなります。事前の耕起は行わず、「荒起こしと播種を組み作業」とするか、「部分浅耕一工程播種」をしましょう。

1 ほ場の準備

○雑草対策

- ・播種前に発生している雑草は、非選択性除草剤で、しっかり枯らします。

○土づくり

- ・適正土壌pH6.0～6.5となるよう、土壌改良資材を投入します。
- ・地力低下の防止には、有機物の投入が必要です。麦わらは全量すき込みましょう。

○排水対策

- ・麦作時に施工した弾丸暗渠は大豆作でもそのまま活用できるため、大豆播種前の新たな施工作業は不要です（過度の排水対策は、逆に夏季の乾燥害を助長します）。
- ・麦作時の周囲溝を排水溝に繋ぎ、表面排水を徹底しましょう。

○施肥

- ・基肥としてPK化成40号を30kg/10a施用します。

2 播種

○種子消毒

大雨後の出芽不良や萎凋・立枯れの原因となる茎疫病対策として、排水不良田や梅雨の合間の播種には、**クルーザーMAXX**が効果的です。

薬剤名	処理量/種子 10kg	備考
クルーザーMAXX	80ml	茎疫病、ハト害、紫斑病
キヒゲンR-2フロアブル	200ml	ハト害、紫斑病

○播種時期と播種量

播種時期	7月5～20日（適期播き）	7月下旬（遅播き）
播種量	3～4kg/10a	6～8kg/10a

○播種深度

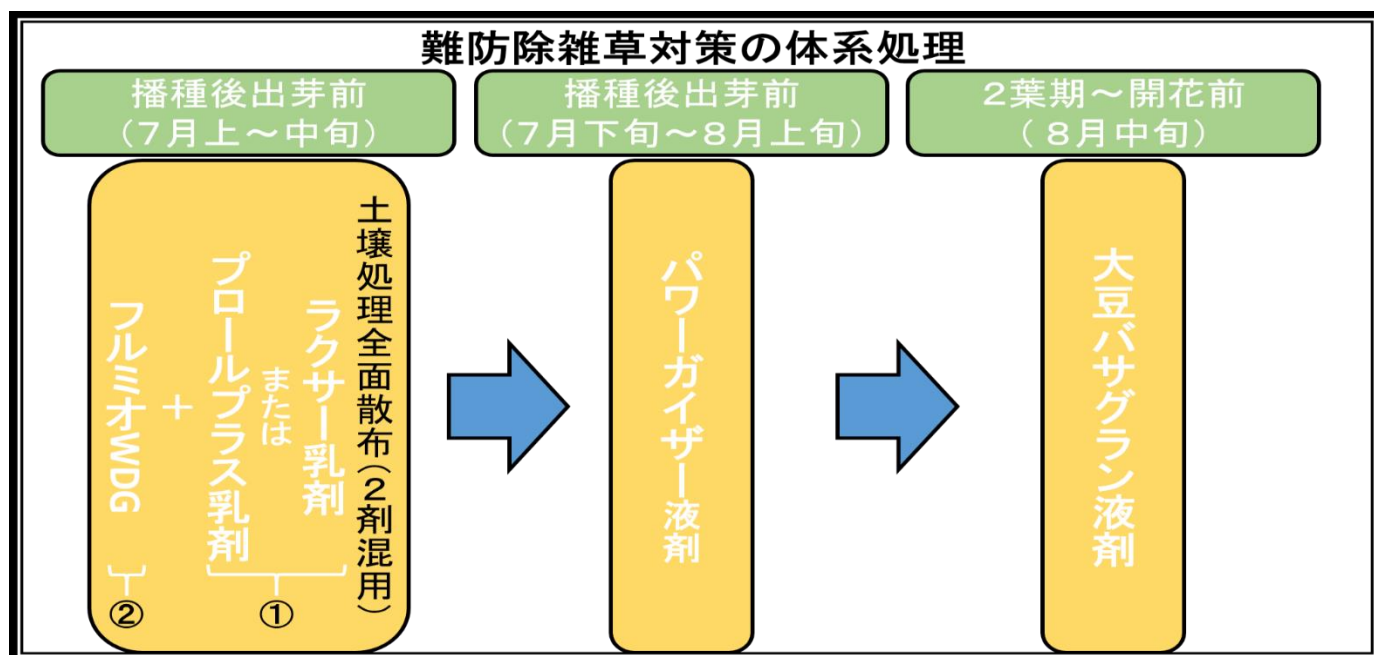
播種の深さの目安は3cmとし、土壌の水分状態に応じて調整し、土が乾燥している場合はやや深め（5cm程度）とします。

○乾燥対策

大豆出芽後は、ほ場内の土壌水分の維持のために、**暗渠栓を閉めましょう。**

3 雑草防除

使用時期	薬剤名	使用量/10a	希釈水量/10a	備考
耕起前	ラウンドアップ マックスロード	200～500mL	50～100L	100倍液が効果高い
			少量散布 25～50L	少量散布用ノズルを使用 強風時ドリフト注意
	ザクサ液剤	300～500mL	100～150L	ツユクサ多発ほ場
	プリグロックSL	600～1000mL		
播種後 ～出芽前まで	ラクサー粒剤	4～8kg	—	フルミオWDG アサガオ・ホオズキ類 多発ほ場では、5～10g/10aを追加散布し、使用後は専用洗浄剤で十分洗浄
	ラクサー乳剤	400～800mL	100L	
	プロールプラス乳剤 (イネ科雑草多発ほ場)	400～600mL	100L	
出芽直前～ 大豆3葉期まで	パワーガイザー液剤	200～300mL	100L	広葉雑草対策
大豆2葉期～開 花前	大豆バサグラン液剤	100～150mL	100L	アサガオ2～3葉期、 ツユクサ3葉期まで



【農薬使用上の注意】 ①散布前に必ず農薬ラベルの登録内容等を確認！ ②散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！ ③散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄！ ④防除履歴の正確な記帳！

!!アタックショット乳剤の製造中止について!!

令和7年産大豆こよみ記載の「アタックショット乳剤」は、播種前研修会で説明したとおり、今後の製造・販売の再開が少なくとも3年先と見込まれています。このため、今年度は在庫のみの販売となり、例年並みの数量供給が難しい状況です。このことに伴い、営農情報からは外していますが、現地では問題なく使用可能です。ご理解のほど宜しくお願い致します。